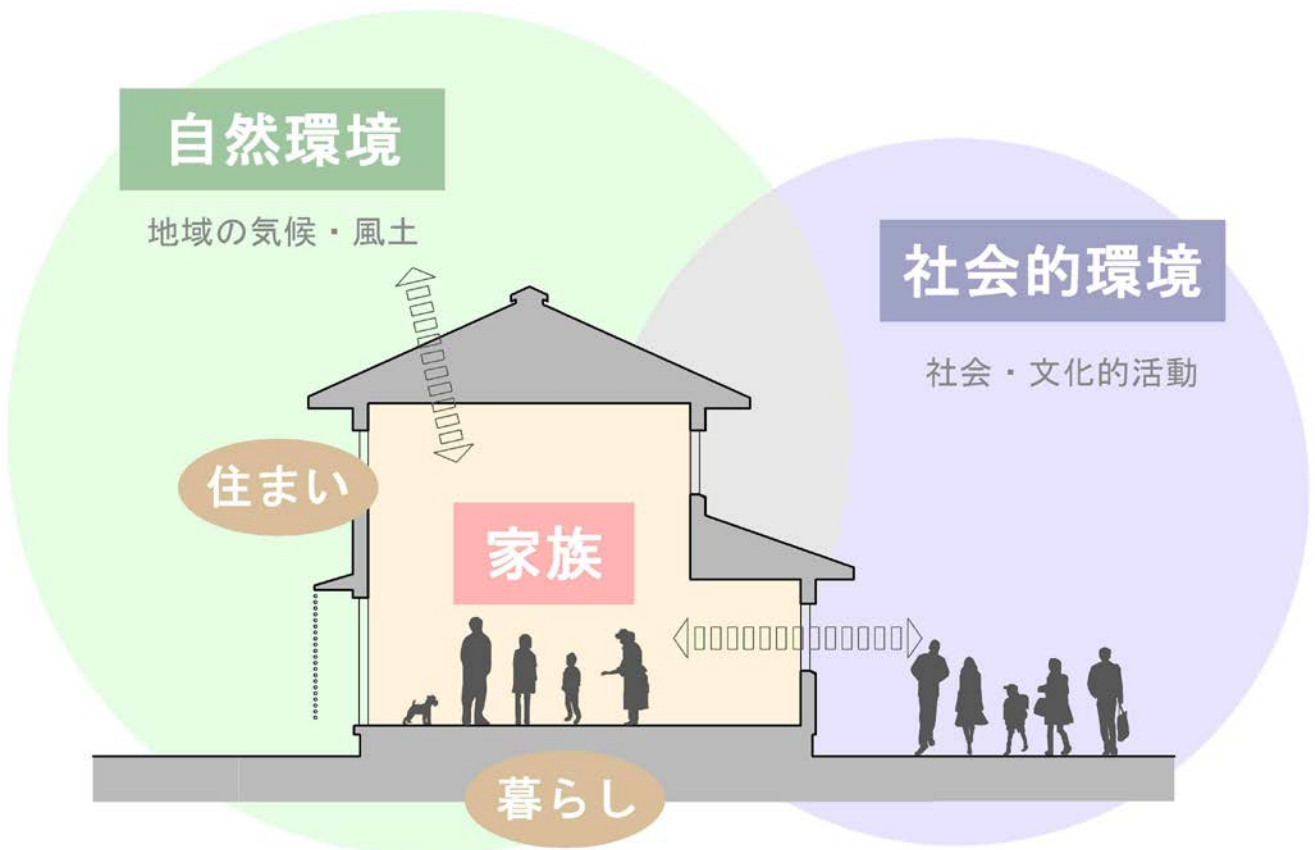


1章 日本の住まいの知恵とは

「自然環境」「社会的環境」「家族」の3つを住まいづくりで重視すべき立脚点として位置づけ、それらに対応して「住まいづくりの目的」（与条件）を設定しています。また、目的を達成するための手法・技法などを「日本の住まいの要素」として整理しています。

1.1 日本の住まいづくりの立脚点



図／日本の住まいづくりの立脚点＝「自然」、「社会」、「家族」

住まいを形成する基盤となるもの —自然、社会、家族

住まいと住まい方は、従来から、地域の気候に代表される「自然環境」と、これに順応して活動する人間が築いた「社会的環境」および住まいの利用主体である「家族」の構成や関係、の相互作用によって形成されてきました。

伝統的な住宅においては、第一の寒暖・湿度・雨・風・雪・地震・地形その他の「自然環境」は、例えば屋根の形やそこに用いられる材料、床の高さなどの住まいの形式に影響を与えてきました。第二の都市や農村といった「社会的環境」とその共同体の下で営まれる活動には、^{なりわい}生業^(※)、教育、慣習、娯楽、宗教などの様々のものがあり、住まいの間取りや住まい方に対し特に影響を及ぼしてきました。第三の「家族」の形態や役割は、

近代以前においては序列に基づく家族関係が重視され、住宅の間取りや住まい方に関して序列や格式・作法といったことが重視されていました。

現代において住まいと住まい方を考える際も、自然環境、社会的環境と家族（この二つは歴史的に著しく変容しましたが）は、従来と同様、その在り方を方向づける重要な条件であると考えられます。本稿では、この「自然環境」、「社会的環境」および「家族」が住まいとその暮らしを成り立たせている基盤となるもの、すなわち立脚点と位置づけます。

^{なりわい}※「生業」：生計を立てていくための職業。家業。

自然、社会、家族に対する、かつての日本の住まいの対処法

わが国の国土は南北に長く、北海道・東北や山間部などには寒冷な気候、関東以西には温暖な気候、九州や四国の南部などには蒸暑な気候の地域が分布しています。同じ気候帯の地域でも沿岸部、内陸部、山間部といった区域や地形などの特性の違いにより、気候は多少相異なることがあります。わが国の各地には、このように特徴あるそれぞれの気候特性に呼応する形で、気象要素を制御あるいは利用するための様々な工夫された住まいの形式や形態が見られます。例えば、雨量の多い地域においては、勾配屋根や深い軒庇を設置して雨水を速やかに確実に外部に排出したり、板壁で外壁や躯体を保護したりするなどの工夫が一般的に行われてきました。

また、わが国の庶民住宅では社会生産体制を反映して、古くから生業の場を含んだ形式の間取りが成立し継承されてきました。そこでは例えば、出入口、土間（ニワ）、座敷、台所、納戸、奥の間といった部屋によりオモテとウラの対比

で構成され、生業や接客・冠婚葬祭など対外的な用途の空間とそれに対する家族生活を中心とした用途の空間が並立し、意匠や設えに様々な工夫が施されていました。

また、社会と密接な関係性を持っていたために住生活の営みは序列が尊重され、例えば、床には土間、板の間、畳の3種類があって、それらは隣り合って設けられていましたが、そこでの行動や用い方に規範を与えていました。このように住戸内で多様な生活や行動を許容するために、住まいを適切に構成し、設えようとする知恵や工夫が培われ、長い間受け継がれてきたものがあります。

かつての日本の住まいの対処の現代における意味

昔からあまり変わる事のない自然環境に対する、現代の住まいにおける対処法は、かつての住まいの工夫からその多くを学ぶことができると考えられます。また、かつて工夫して用いられていた方法以外に、現代的な工法や材料・製品などを用いて、同様の効果を得られるものもあると考えられます。

一方、社会的環境や家族の関係・役割の著しい変化により、かつて住宅と一体であった生業の場や空間の序列化は、現代の住まいでは多くの場合必要とされなくなり、家族および個人の生活への対応が主題となってきています。しかし、かつて庶民住宅で用いられていた社会や地域・近隣との関係に呼応するために配慮された

種々の工夫のなかには、人間関係など心の豊かさを育む上で参考になるものもあると思われます。とくに住まいの機能が限定されてきている現代において、生業、人の招き入れ、趣味など、多様な機能に対応していたかつての住まいの構成や設えは、示唆を与えてくれるものと思われます。

1.2 住まいづくりの目的

わが国の自然環境に呼応し、かつ、社会的環境や家族関係の変化の中で日本の住まいは形成され、受け継がれ、進展してきました。この自然、社会、家族に対し培われた住まいの知恵を再確認することを通して、これからの住まいの目標像を色々とイメージすることができます。

本稿では、そのような住まいづくりの目標像を「住まいづくりの目的」として設定しています。住宅を建設・取得しようとする一般のユーザーの中には、どのような目標をもって自らの住まいづくりに取り組むべきか判らないでいる方も多くいると考えられます。本稿で設定する「住まいづくりの目的」は、ユーザーが住まいづくりで何を重視すべきかを検討する際に、指針として用いることができます。

本稿では、住まいづくりの立脚点である自然

環境、社会的環境および家族への対処という観点から、次の〔1〕から〔4〕までの4つを、「住まいづくりの目的」と位置づけて、特に重視します。

〔1〕人と人との関係を守り育てる、〔2〕日々の暮らしを楽しむ は、社会的環境や家族関係の中で人が豊かに成長していくために大切にしてきたこと。

〔3〕心地よく環境にやさしい生活を支える、〔4〕外的環境から建物を保護する は、自然環境に調和して長期間継続して住まうために不可欠であったことと捉えることができます。

この〔1〕から〔4〕の「住まいづくりの目的」について、それぞれ具体的な目的を設定しています。

それらの内容と効果、および、関連する日本の住まいの要素を、以下に示します。

〔1〕人と人との関係を守り育てる

人を迎え入れ、ともに集う

暮らしは「社会」のなかで営まれ、人と人との関係の中で成立しています。住まいに交流の場を設けること、人との関わりに配慮した設え

を施すことは、社会的な生活を育み、住生活のみならずそれをとりまく地域社会を豊かにしていくことにつながります。

- 来訪者を気持ちよく迎え入れる : 植栽、前庭、玄関、格子、建物配置
- 集いをうながす : 続き間、縁側、土間、濡れ縁

家族が見守り合い、成長する

「家族」の生活や成長の器としての住まいのつくりは、家族相互の関係に少なからず影響を及ぼします。

家族がお互いに心を配り、尊重し合う関係の形成に寄与するような住空間や各部のつくりが大切となります。

- 家族の集いをうながす : 畳（和室）、板の間、土間、囲炉裏
- 家族の気配や様子を感ずる : 襖、引戸、障子、続き間、吹抜け、畳（和室）

〔2〕日々の暮らしを楽しむ

暮らしのなかで、楽しみや豊かさを味わう

住まいは食事、就寝など基本的な生活行為の場であると同時に、「社会」の中で形成されてきた文化的な様々な行為や活動を楽しめる場でも

あります。そのような場を住まいのなかに形成することは、日々の暮らしに豊かさ、深み、緊張感などを与えます。

- 和の意匠を味わう : 瓦屋根、漆喰壁、板壁、畳（和室）、真壁、格子、障子、襖、引戸、大黒柱、自然素材・地域産材
- 趣味を実践し楽しむ : 畳（和室）、土間、板の間、続き間、床の間
- 思い出を受け入れ、心を落ち着かせる : 仏壇・神棚

自然の変化やその風合いを感じとる

「自然」とのふれあいは、私たちの気持ちに落ちつきや潤いを与えてくれます。住まいのなかに、自然を感じられる空間を形成する、自然の

素材を活用してその変化や風合いを楽しめることは、日々の暮らしに一層の彩りを添えてくれます。

- 自然の素材を味わい、継承する : 瓦屋根、土壁、漆喰壁、板壁、襖、引戸、障子、畳（和室）、板の間、自然素材・地域産材
- 四季の変化を感じ、楽しむ : 植栽、前庭、坪庭・中庭、掃き出し窓、地窓
- 光を採り入れる、制御する : 高窓・天窓、深い軒、障子、日除け（すだれ・よしず）、地窓

〔3〕心地よく環境にやさしい生活を支える

夏の快適、涼やかな生活に寄与する

夏期の高温・多湿な気候に対して、日射の遮蔽や自然風の活用による採涼は、従来から住まいに工夫して用いられてきました。

夏期や中間期の「自然」を制御し活用することは、生活時の省エネルギーにも寄与します。

- 自然の風を取り込み涼感を得る : 掃き出し窓、高窓・天窓、地窓、越屋根、格子、続き間、吹抜け、襖、引戸、欄間、坪庭・中庭
- 日射を遮り室内への流入を抑える : 深い軒、日除け（すだれ・よしず）、窓庇、障子、植栽

冬の快適、あたたかな生活に寄与する

冬期の低温な気候に対して、日射熱の活用や熱の調節による採暖は、夏の対策ほど意識されてこなかったものの、かつての住まいのなかに効果が得られる要素もあります。

それらを工夫して用い、冬期の「自然」を制御することは、暖房エネルギー消費の削減にも寄与します。

- 熱移動を調節し寒さを緩和する : 縁側、雨戸、障子
- 日射熱を集め蓄えて暖かくする : 掃き出し窓、土間、土壁、自然素材・地域産材

〔4〕 外的環境から建物を保護する

家をいためる自然の力を和らげる

強い雨風、大雪、高い湿度といった「自然」の環境要素は、それが長期間にわたり過度に建物に作用すると、建物を傷める要因となるおそれがあります。

各部のつくりや材料の使用法に工夫をこらし、地域の気候風土のなかで長寿命な住宅とすることが大切です。

- 風雨から建物を守る : 勾配屋根、瓦屋根、深い軒、板壁、漆喰壁、窓庇、雨戸、植栽、建物配置
- 湿気から建物を守る : 真壁、自然素材・地域産材、畳（和室）、高窓・天窗

1.3 日本の住まいの要素

「住まいづくりの目的」を達成するためには、建物の形式、材料・構法、空間構成などの様々のハードな要素と、住まいを維持・管理し活用するためのソフトな方法、の両面を的確に用いることが必要です。

本稿では、このうちハードな要素を「日本の住まいの要素」と称して、その手法・技法を取り上げます。単に伝統的な木造住宅に用いられた手法・技法のみを取り上げるのではなく、現

代の住まいづくりにとって有用で、かつ一般的にも適用可能な手法・技法に着目します。

日本の住まいの要素は、次表の通り、部位・つくりで分類し、36種類を取り上げます。これらの日本の住まいの要素を、自然、社会、家族などに関する個々の条件下で上手く取り入れて活用することこそが、「日本の住まいの知恵」であると言えます。

表／日本の住まいの要素

部位・つくり	要素名	機能・効果など
屋根・軒	1 勾配屋根	雨水排出の容易性・即時性向上
	2 瓦屋根	長期の耐久性（塩害防止）向上、部分補修可能、断熱性向上
	3 越屋根	通風・換気、採光
	4 深い軒	耐久性向上（雨・風・雪）、日射遮蔽、軒裏反射の導光
外壁	5 板壁	落ち着いた外観、部分補修可能、材料調達が容易
	6 漆喰壁	防水性・防火性向上、日射を反射、補修・修繕が容易（重ね塗りが可能）
開口部	7 高窓・天窗	採光・通風と防犯の両立、高低差を活かした通風性能向上（排熱）
	8 地窓	採光・通風・換気（床に近いレベル）、戸外の鑑賞
	9 掃き出し窓	採光・日射取得・通風、人の出入り、塵埃の掃き出し
	10 窓庇	防水上弱点となる開口部廻りの保護、日射遮蔽
	11 日除け（すだれ・よしず）	日射遮蔽、まぶしさの制御、通風、視線のコントロール
	12 格子	視線のコントロール、防犯、通風、日射遮蔽、まぶしさの制御
	13 雨戸	防雨、開口部の保護、防犯
内部建具	14 襖	室の仕切り・つながり、収納扉、装飾
	15 引戸	内部通風性能の向上、強風時の安全性、空間のつながり
	16 障子	日射遮蔽、日照調節（光の拡散）
	17 欄間	室内間の通風効果、採光（導光）
内部空間	18 続き間	多目的性（冠婚葬祭など）、間仕切りの容易性、廊下面積の節約
	19 縁側	熱的な緩衝空間、空間の拡がり、内外の中間領域、動線
	20 玄関	住宅の出入口、上下足の履替え、格式の表現、多目的な土間
	21 吹抜け	空間の開放性、採光、通風（ドラフト効果）、上下階のコミュニケーション
ゆか	22 畳（和室）	室利用の多目的性・転用性、吸放湿性、柔らかい感触
	23 板の間	温かみ・柔らかみのある触感、作業性、補修が容易
	24 土間	多目的性（戸外的利用）、作業性、接触感、蓄熱性
内部意匠	25 真壁	躯体現し（耐久性向上）、和の意匠の演出（木と塗り壁）
	26 大黒柱	家のシンボル・中心性、構造安全性
装い	27 床の間	和の空間の演出、季節感の演出
	28 仏壇・神棚	住まいにおける家族の心のよりどころ、季節の節目の明確化
	29 囲炉裏	家族の団らん、採暖
素材	30 土壁	吸放湿性、蓄熱性、防火性、地震力に対する粘り強さ
	31 自然素材・地域産材	健康性、自然循環、経年美化、地域経済の活性化
戸外	32 濡れ縁	庭と室内の行き来、戸外生活
	33 坪庭・中庭	自然との親和、採光・通風・換気
	34 植栽	防風・導風、日射遮蔽、美観・修景
	35 前庭	コミュニティ形成、ご近所づきあい、子供の遊び場
配置	36 建物配置	防風・導風、採光・日射遮蔽、近隣との協調